

地下水学会へようこそ！

第33期 会長メッセージ
杉田 文



地球上の液状淡水の99%を占める地下水は、豊富な表流水を有する日本においても水利用の11%を賄う重要な水資源です。また、地下水は自然の水循環を通して湿地や川、湖を保つことにより、そこに広がる豊かな自然の生態系を支える役割も担っています。

井戸を用いた地下水利用は弥生時代に始まったとされますが、水需要の増加とともに揚水量が増加し、戦後には過剰揚水による地盤沈下、塩水侵入、1980年代には有機塩素系化合物や肥料による地下水汚染といった地下水障害が発生しました。これらの解決に加え、持続可能な範囲における地下水利用、地下水制御による安全な地下空間利用など多様な目的のもと、地下水研究が行なわれています。地下水学会は設立以来、地下水研究者・技術者に成果発表・情報交換の場を提供し、地下水に係る幅広い知識と情報を蓄積して地下水研究の発展を支えてきました。

2014年には水循環基本法が施行され、2021年同法一部改正による地下水への言及により社会からの要請が強まることもあり、地下水ガバナンスや気候変動への適応・対策など、社会課題解決に直接的に関与する研究領域が広がりつつあります。これらの複雑で厄介と言われる課題の解決には学際研究、さらに超学際的アプローチが必要とされます。

本学会の活動の中心は学会誌の発行と春秋の学術講演会ですが、近年では学会間連携など、分野横断的で柔軟な研究推進体制の構築をサポートする活動が加速しています。また、よりカジュアルに専門家間を縦横につなぐイベントも多数、開催されるようになりました。地方公共団体や市民活動で地下水に携わる方に向けた企画の数や回数も増えています。

地下水研究者、技術者に加え、地下水管理者、地下水に関心のある市民の皆様も本学会を活用していただけると思います。本学会が広く地下水に関心のある人々の集まりとなることにより、持続可能な社会の構築に向け、地下水を通じてより豊かな未来への道が見えてくることが期待されます。

地下水学会の活動と発展にご協力いただけますよう、心よりお願い申し上げます。

会員資格と特典

1. 会員資格および年会費

- 正会員：本会の目的に賛同する個人 「年会費：9,000円」
- 準会員：地下水の研究に関心を有する学生 「年会費：4,000円」
- 特別会員：本会の目的に賛同する団体 「年会費：一口40,000円、一口以上」
- 名誉会員：本会に多大な貢献をした70歳以上の会員

2. 会員特典

1) 正会員・準会員

- ①会誌一部(年4回発行)を受け取ることができます。
- ②講習会等に会員価格で参加することができます。
- ③会誌に論文等を投稿でき、講演会で発表できます。

2) 特別会員

- ①一口あたり会誌1部(年4回発行)を受け取ることができます。
- ②特別会員に所属の方は、原則、講習会等に会員価格で参加することができます。
- ③講演会での展示を行うことができます(有料)。
- ④特別会員のホームページを学会ホームページにリンクすることができます。

3. 入会申込み方法

電子メール、郵便、FAXのいずれかにより入会申込書を学会事務局までご送付ください。詳しくは学会ホームページより「入会申込み」をご覧ください。

お問合せ・入会申込み先

〒104-0045
東京都中央区築地2-15-15 セントラル東銀座1008

公益社団法人 日本地下水学会事務局
TEL/FAX : 03-3549-1135
E-mail : chikasui@jagh.jp
ホームページ : <http://www.jagh.jp/>



2023.11.1



清水端の水
(長野県南佐久郡小海町)



公益社団法人 日本地下水学会
Japanese Association of Groundwater Hydrology
～地下水を科学し社会と未来をつなぐ～

1. 目的

日本地下水学会は昭和34年(1959年)に設立され、その後任意団体として活動してきました。平成21年(2009年)の学会設立50周年を期して、学会としてより高い社会的役割を果たすべく一般社団法人に移行し、さらに平成22年(2010年)には公益社団法人に認定され、現在は公益社団法人日本地下水学会として活動しています。

本学会は地下水に関する学問の発展、地下水の開発・保全に関する研究及び技術の広範な普及に関する事業を通して、地下水資源の保全と有効利用、地下水に関する諸問題の解決に貢献し、社会の発展に寄与することを目的として活動しております。本学会は地下水に関する理学・工学・農学などの幅広い分野の研究者・技術者を擁しており、会員数は約700名となっています。

地下水は水資源の重要な一角を占め、生活・工業・農業用水などとして利用されており、国内のみならず世界においても水資源の供給源として重要性がますます高まっています。また、昨今の異常気象、沙漠化、酸性雨などに関連した地球規模の環境保全の必要性も高くなっています。CO₂排出量削減の観点からは地下水を持つ熱エネルギー資源の有効利用システムも注目されています。その一方で資源的価値をおびやかす有機塩素系化合物・硝酸性窒素などによる地下水・土壤汚染も依然として解消されておらず、その解決策が求められているところです。

これらの問題に即応し、解決策を講じていくには学際的な知識の集積が必要とされ、本学会の果たすべき社会的役割が一段と高まっています。

2. 主な活動内容

前項の目的を果たすため、現在下記のような活動を行っています。

- ①会誌の発行：年4回地下水学会誌
(Journal of Groundwater Hydrology)
- ②学会講演会の開催：春季及び秋季
(年2回)
- ③シンポジウムの主催・共催・後援
- ④講演会・講習会の開催：地下水技術に関する講演会・講習会など
- ⑤市民コミュニケーション活動：湧水巡りツアーなど
- ⑥研究グループによる活動
- ⑦調査団の派遣
- ⑧地下水に関する書籍の出版
- ⑨若手支援・男女共同参画の推進
- ⑩表彰：名誉会員、学会賞、地下水学術賞、論文賞、研究奨励賞、技術賞、学会功労賞、永年会員功労賞、若手優秀講演賞、感謝状

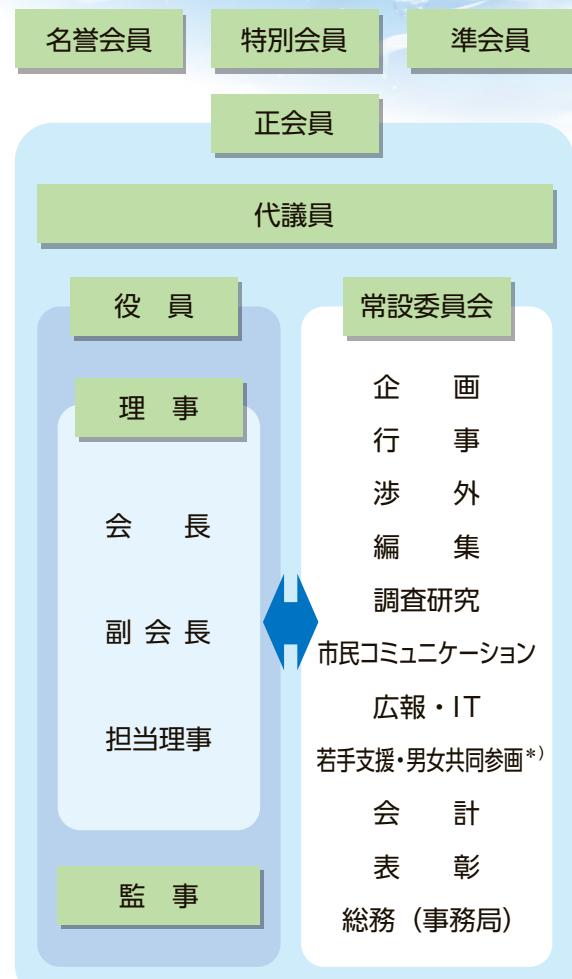
3. 出版物

- ①「図説 日本の湧水」(朝倉書店、2023)
- ②「地下水・湧水の疑問 50」(成山堂書店、2020)
- ③「地下水用語集」(理工図書、2011)
- ④「地下水シミュレーション－これだけは知っておきたい基礎理論」(技報堂出版、2010)
- ⑤「見えない巨大水脈 地下水の科学」(講談社ブルーバックス、2009)
- ⑥「地下水のトレーサー試験－地下水の動きを知る」(技報堂出版、2009)
- ⑦「新・名水を科学する－水質データから見た環境」(技報堂出版、2009)
- ⑧「地下水・土壤汚染の基礎から応用」(理工図書、2006)
- ⑨「雨水浸透：地下水涵養」(理工図書、2001)
- ⑩「地下水水質の基礎」(理工図書、2000)
- ⑪「統一 名水を科学する」(技報堂出版、1999)
- ⑫「名水を科学する」(技報堂出版、1994)



4. 学会運営概要、組織

日本地下水学会では概ね正会員30人の中から1人の割合をもって選出される代議員をもって社員とされています。役員(理事、監事)は代議員総会の決議によって選任され、会長(代表理事)、副会長、理事、委員会参加メンバーにより、主に運営されています。



*) 略称 YEPS : Committee on Young members' support and Equal Partnership